

飯塚市不登校児童生徒支援グランドデザイン（概要）

1. 不登校児童生徒の現状

○不登校児童生徒数全国：299,048人(R4※過去最多！) 飯塚市：554人(R5※過去最多)
→この5年間で**1.8倍** →この6年間で**2.2倍**

- ・不登校児童生徒数は年々増加。増加ペースも上昇中。※飯塚市の1,000人当たり不登校児童生徒数は**全国を上回るペース**
- ・主な不登校の要因：「本人に係る状況」（無気力・不安）「該当なし」が多い → **不登校の要因や背景の多様化、複雑化**
- ・教育支援センター（適応指導教室）への通所に課題（福岡県・飯塚市ともに） ・民間団体・施設との連携充実の必要性

誰一人取り残されない
学びの保障に向けた
不登校対策
(COCOLOプラン)

- ①学びの場の確保
②「チーム学校」で支援
③学校を「みんなが安心して学べる場所」に

2. これまでの取組

【飯塚市】

学びの場の確保 → COSMOS(適応指導教室(教育支援センター))
(学校独自での)校内教育支援センター設置

小学校6校、中学校7校

民間のフリースクール等との連携

「チーム学校」 →市費SC・SSW（各5名ずつ）配置

スクールサポーター配置

「飯塚アクション3」、定例アンケート、教育相談、
不登校対策委員会

「安心して学べる場所」 →学校通信、HP等による取組周知

学校外の人材、地域人材の活用

※生徒指導主事・生徒指導担当者研修会の実施（年2回）

研究指定校による校内教育支援センターの先駆的取組と成果共有

【福岡県】

「福岡県不登校児童生徒支援グランドデザイン」(R3年12月)

- ①不登校を生まない学校づくり ②情報分析・行動指針のモデル開発
③ICTを活用した個別支援の充実 ④SNS相談窓口
⑤教育支援センターの在り方・機能の確認
⑥教育支援センター職員の資質向上 ⑦複層的なネットワーク構築
⑧支援リーフレット

【成果】

- ・個に応じた学び・自立の支援
- ・「チームサポート」支援体制
- ・小中学校間での情報共有
- ・丁寧な実態把握
- ・人材活用による取組
- ・不登校児童生徒対応についての理解・実態把握

【課題】

- ・校内教育支援センターの設置率は44.8%（人・場の確保）
- ・COSMOS利用は、7割以上が穂波地区の児童生徒（通所・移動の困難）
- ・SC・SSW活用の学校間格差
- ・不登校児童生徒の個別対応困難
- ・不登校児童生徒への指導・支援を含めた、学校が地域の方から支援を受けるための体制づくり
- ・各学校間での児童生徒の状況や取組の内容に差がある。

3. 強化する取組

学びの場の確保 → 全ての小中学校への校内教育支援センター設置
:場所、人材確保、AIドリルの活用

COSMOS(適応指導教室(教育支援センター))の
機能強化:利用促進、活動内容充実、アウトリーチ
支援、第2教育支援センター設置

「チーム学校」 → ICTを活用した児童生徒の心身の状態の早期
把握:校務支援システムやアプリの活用

SC・SSWを活用した早期支援体制強化:

SC・SSW増員による専門的サポート拡充

「安心して学べる場所」 → コミュニティスクールを中心とした
地域と一体になった魅力ある学校づくり
:地域と協働したり、地域活動に参画し
たりする学習活動の創造
学力向上のための取組や授業改善の推進
(※飯塚市学力向上推進プラン)

自分の進路を主体的に捉えて、社会的な自立を目指す

「かしこく」「やさしく」「たくましい子どもの育成

未来社会を切り拓く資質・能力を育成する小中一貫教育

不登校児童生徒への支援

不登校を生まない支援